

学校目標		重点目標							
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。		1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくり進路保証 今年度の重点目標 ① いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校をつくります。 ② 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます。 ③ 授業を大切に、生徒の基礎力と専門性を伸ばします。 ④ 地域と連携し、地域に貢献することができる人材づくりを進めます。 ⑤ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます。							
[成果と課題()] ・ 生徒指導を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により多くの生徒が社会性を身に付けつつある。改善の遅い一部の生徒への指導が課題である。 ・ すべての生徒が、自ら学び自ら行動できるように、更なる指導体制の充実と研究努力が必要不可欠である。現在も継続して取り組み中である。 ・ SPH指定2年目となり、生徒・教職員も昨年度の経験を生かし、より充実した取り組みを行うことができた。商業科と服飾科のコラボレーションについても道筋が立ってきている。		[改善策・向上策] ※左記に対する記述が、次年度の目標・課題となる。 ・ 生徒指導の対象となる生徒が固定化されてきており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導を粘り強く行っていくことが必要である。 ・ 次年度はSPH3年目となり、総括を行う年度である。SPH指定終了後も、生徒が主体的に学習活動が行えるよう、指導内容の研究を行っていく必要がある。また、諏実タウンとファッションショー等を同時開催することとなるため、年度当初より両科はもちろん普通科も含めた校内体制の構築が不可欠である。							
領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教 育 活 動	I 生徒指導 ・ 生活指導係 1学年 2学年 3学年	1 社会的資質・規範意識の向上	・ 挨拶、頭髮・身だしなみ、時間を守る等の指導の徹底 ・ 規律と秩序ある生活態度の育成 ・ 学習規律の確立と授業マナーの向上 ・ 交通安全、マナー等を遵守する指導と防犯意識の向上	・ 朝の立門指導、授業内、学校生活のなかで全職員が共通認識のもと声かけや指導を行い、必要に応じて係が指導を行っている。 ・ 全校集会、SHR等機会を捉えて交通安全、マナーの遵守、防犯意識の向上について注意喚起を行っている。財布など貴重品の自己管理の意識が低い。					・ 頭髮等改善が必要な生徒については、今後も粘り強くその都度指導をしていく。ピアスについては、全職員で統一した粘り強い指導が必要。 ・ 貴重品は必ず身に付けて移動させる指導と、必要な生徒は担任が預かる指導を行う。
		2 健全育成	・ 問題行動等への適切な対応と予防指導および事後指導の充実 ・ 人権を守る土壌を育みいじめ等を許さない環境作りの推進 ・ 遅刻者指導と保護者との協力	・ 問題行動の件数、指導数も比較的少なく落ち着いている。 ・ 学校生活アンケートを実施し(7月、11月)、担任との面談を通していじめ等の早期発見に努めている。 ・ 遅刻が多い生徒には担任より家庭連絡をし、奉仕活動を行っている。				・ 来年度も年2回学校生活アンケート実施予定。 ・ 必要に応じて事後指導の面談を行う。	
		3 相談と支援	・ 校内チーム支援の推進・協力 ・ いじめや不登校への予防と対応 ・ 特別支援教育の充実 ・ 校外関係機関との連携	・ 校内チーム支援の一環として会を開いた。 ・ 不登校傾向の生徒に関して、担任・学年・養護職員と連携し、本人保護者と面談を重ね、またカウンセリングを実施した。 ・ 校外関係機関と連携し生徒対応をした。				引き続き校内におけるチームの支援の推進を行いたい。困っている生徒の状況を早めに把握し各担任・分掌・学年会と協力連携をはかりたい。11月には職員研修を行った。	
		4 人権意識と仲間づくり	・ 人権意識に基づく学級経営 ・ 人権感覚の定着と向上	・ 人権啓発週間に合わせ、図書館に関連するコーナーを設けた。 ・ 2学年は、沖縄修学旅行の事前学習として、映画『さとうきび畑の歌』を鑑賞し、戦争や平和に関する理解を深めた。 ・ 1学年では、松代大本営見学の事前学習として、学年集会で教員による講演会を行った。また、映画『この世界の片隅に』を鑑賞し、平和を守ることの大切さを学習した。 ・ 3学年では、映画『くちびるに歌を』の鑑賞を行い、障害者に対する理解を深めた。				・ 1学年は平和学習、3学年は人権学習の一環として、それぞれ映画鑑賞を行い、感想文を書かせる。	
	・ 教育相談 ・ 人権係 ・ 保健係 ・ 整美係 ・ 校友会係	5 健康・安全教育	・ 健康・安全教育の充実 ・ 生徒及び職員の健康支援 ・ 環境衛生の促進	・ 保健日より各行事を通して個別に、または全体に対して支援をおこなっている。 ・ 保健委員の当番活動として、トイレ・水場の見回り、整美を行っている。				・ 様々な行事や季節の変化を考慮し、健康管理について指導したり、個々に配慮できるように、引き続き支援を続けていく。 ・ 生徒の保健意識を調査し、生徒の実情に合わせた支援ができるようにしていく。	
		6 校舎内外の美化の推進	・ 進んで清掃に取り組む意識の構築 ・ 校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ ゴミ分別の徹底 ・ 整美委員の自発的取り組みへの支援	・ 各クラス、班の構成員により清掃への取り組みの差が大きい。監督指導が徹底されている分担場所はしっかり掃除ができていく。 ・ 整美委員は自覚をもって活動することができた。				・ 清掃に来ない生徒へは、監督者が繰り返し呼び掛けていくようにしたい。 ・ 分担場所の中で個人の役割を決めてみる。 ・ 各クラスの整美委員に呼びかけをお願いする。	
		7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・ リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・ 委員会活動の活性化 ・ 校友会行事・文化祭の質的向上	・ 第70回科の葉祭を無事終えることができた。昨年より多方面で生徒の自主的な活動を見ることができた。さらに委員会活動の充実を図りたい。				・ 2年生が校友会を運営していくので、しっかり目標を立てさせて、達成できるように助言していく。	
		8 クラブ活動の充実	・ 加入促進と各部の活発な活動 ・ クラブ活動による生徒指導の充実 ・ 各種大会、コンクール参加に対する支援	・ 運動部は比較的活発に活動し、各種大会で活躍できている。またパソコン、珠算部は全国大会へ出場することができ、充実できている。				・ さらに活発なクラブ活動になるように応援したい	
II 進路指導 ・ 進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・ 進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解ミニメッセ、インターンシップによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 オープンキャンパスの活用 諏訪圏工業メッセへの参加	・ 1学年では8月にミニメッセを行い、地元の企業への理解を深め10月に行われるインターンシップを通して職業観を身につけている。 ・ 2学年では、夏期休業中進学希望者へのインターンシップへの参加を呼びかけ、また校外での学校説明会への参加をすすめ、進路意識の高揚を促している。また、10月には諏訪圏工業メッセへ参加した。 ・ 2月には1,2学年ともに系統別の進路ガイダンスを予定している。				・ ミニメッセ、インターンシップ、工業メッセという流れが定着してきた。その中で、インターンシップを受け入れてもらうためのより多くの企業を探さなければならない。あわせて、職員の企業理解をすすめる必要を感じています。		
	2 進路保証	・ 個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 本人および保護者の納得した進路選択(進路希望とその実現)	・ ほぼ全員の生徒と面談を行いながら、本人・保護者の納得する進路選択をすすめている。 ・ 12月には内定者と採用担当者との懇談会を実施した。				・ 3者懇談だけでなく、どれだけ本人・保護者・担任で話をできる機会を持てるかが重要と考えています。		

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教	III 学習指導 ・教育課程・学習指導委員会 ・学習係 1学年 2学年 3学年	1 21世紀型学力の養成 教育課程の検証 昨年度SPHに対応し改編された教育課程の成果と課題を検証する	<ul style="list-style-type: none"> 科目指導法の研究と実践 学習理解度の把握と定着への継続的指導 	<ul style="list-style-type: none"> SPHパフォーマンス評価(ルーブリック)研修会を実施した(8月)。各教科よりルーブリック評価を提出し、グループで協議検討した。京都大学福嶋先生より指導して頂いた。 来年度開講される学校設定教科「文化ビジネス」についてSPH委員会を中心に検討してもらった。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の過渡期であるため、引き続き教育課程の運用についての検討やシラバスの整備に努めていく。
		2 意欲・関心の喚起と観点別評価	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの検証と授業改善 観点別評価の実践研究 授業態度、授業に臨む姿勢の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 授業充実のためのアンケートを7月末に実施し、授業の充実に向けた意見をすべての生徒から集めた。 年度末に2回目のアンケートを実施している。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを受けて改善点を研究し、授業のさらなる充実を図っていく。
		3 基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> BabyStep(ドリル)の活用 (集中力を高める)読書週間の充実 家庭学習の習慣づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 一般常識・国・数・英のBabyStepドリルを実施。一般常識の出題には読み取る力等の工夫を加えている。 図書委員会の協力が有り、読書週間の充実が図れた。 各授業で課題提出が徹底できるよう努めた。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取り組みを振り返り、次年度に向けた効果的な実施方法や課題を検討していく。
育	IV 専門科 商業 会計情報科 服飾科	1 専門教育の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 進路希望に即した学習構成と学習支援 	<商業科・会計情報科> ・一方的な説明だけの授業ではなく、実習やグループワークも取り入れて生徒が主体的に学ぶことができるようになってきている。 <商業科> ・生徒の興味・関心、進路希望に合わせて選択講座を展開している。 <会計情報科> ・簿記と情報の高度な資格が取得できるように指導している。		○			<商業科・会計情報科> ・科目担当者が相談し合いながら授業を行うことによって生徒の意欲を引き出すようにしていく。 ・授業を互いに参観することによって、より良い授業になるように切磋琢磨していきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 第9回学習成果発表会を1月27日(土)に実施した。1,2年次に「ファッション造形基礎」「ファッション造形」などで学んだことを基礎とし、3年次の「課題研究」で3年間の授業成果を発表した。展示と発表の部の2部構成で、日頃のものづくり教育の場における地域連携事業についても展示発表した。 授業に加えて、社会人講師、学科研修や行事等を通して学習内容の充実を図った。 校外コンクールに意欲的に取り組んだ。 		○			<服飾科> ・学習内容が確実に定着し、目標が達成できるように、個に応じた指導をしていく。 ・新教育課程にあわせ、学習内容の見直しをしていく。 ・発表会は継続的に実施し、更に発展できるように内容や予算措置の充実をはかる。	
		2 資格取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けた受験指導 	<商業科・会計情報科> ・進路実現に向けた資格の意義を説明し、放課後の補習を該当者全員に行っている。 <服飾科> ・補習や対策講座を設けて支援をし、全国家庭科技術検定、色彩検定、ビジネス文書実務検定、ファッション販売能力検定等の取得に意欲的に取り組んだ。		○			<商業科> ・個人の能力に合わせたきめ細やかな指導をしていくように心がける。 <会計情報科> ・目的意識を明確に持たせることによって生徒の意欲を引き出し、勉強に取り組ませるようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> 補習や対策講座を設けて支援をし、全国家庭科技術検定、色彩検定、ビジネス文書実務検定、ファッション販売能力検定等の取得に意欲的に取り組んだ。 		○			<服飾科> ・検定取得につながるよう引き続き支援していく。	
		3 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 各種取り組みの継続と発展 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業 	<商業科・会計情報科> ・12月2・3日に諏実タウンを地域と連携しながら実施しており、地域に定着してきている。 ・課題研究においてグループに分かれて地域について調査・研究を行った。 <服飾科> ・諏訪湖畔病院小ホールでファッションショーを行い、地域の方と交流した。(7月) ・諏訪市ものづくり科との連携をはかり、城南小学校のキャリア教育活動に引き続き協力している。(9月)		○			<商業科・会計情報科> ・10月実施になるので、広報をしっかりやっていくとともに、内容の見直しもおこなっていく。 ・ビジネスに活かすためにより企業と協力していくようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> 諏訪湖畔病院小ホールでファッションショーを行い、地域の方と交流した。(7月) 諏訪市ものづくり科との連携をはかり、城南小学校のキャリア教育活動に引き続き協力している。(9月) 		○			<服飾科> ・地域との連携を図りながら、今後も、ものづくり教育の場で連携を継続していく。	
動	V SPH	1 SPH活動の企画・運営	<ul style="list-style-type: none"> 各担当との連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> SPH運営委員会をこまめに開き、職員会に報告できている。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 広く職員の見解を取れ入れていくために、各教科から意見を出してもらうようにしていく。
		2 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化・伝統に関する講演会 地域課題についての発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生で講演会を計画的に行うことができ、学年内の発表会を実施することができた。 諏実タウンにおいてプレゼンや展示発表を実施することができた。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 使用する施設の調整を計画的に行うようにする。 諏実タウンでしっかりと内容を発表できるように計画する。
		3 取組内容の発信	<ul style="list-style-type: none"> HPの充実 生徒・保護者への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 即時性においてはfacebookを活用し、まとまった活動報告として学校HPを活用できている。 SPH通信を発行し、生徒・保護者に配付し、HPIにも掲載した。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 概ね昨年に比べて充実してきているが、多くの人に本校の取組の趣旨を理解してもらえるようにしていく。 読んでもらえるように、内容を工夫していく。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策		
					A	B	C	D			
学	I 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・ 行事等の際には関係部署と連絡をとり日程等の調整を行っている。 ・ 数年前からの懸案事項であった文化祭と諏実タウンを中心とした行事計画の見直しに着手した。				○	・ 今後も行事等についても関係部署と連絡を取り合い、次年度に向けて改善点を明らかにしていきたい。 ・ 諏実タウンに関しては両科を中心とした学校行事と位置付け、連絡調整等を行う部署を設け、次年度の計画を早めに立てていきたい。 ・ 文化祭については、校友会係職員・執行役員生徒の意見をまとめ、内容を検討していきたい。		
			・ 業務の整理・改善と新規企画 (反省職員会の充実)	・ 一昨年度より始めたオリジナルクリアファイルの作成は、服飾科を中心に生徒から多くのデザインの応募をもらった。 ・ 12月より各分掌・個人から意見を募り、各部署で反省や改善点を出していただいた。			○	○	・ クリアファイルについては次年度も同様の日程で作成を行いたい。デザインの応募が服飾科の生徒がほとんどであるため、商業科の生徒にも応募してもらう方法を考えてい。 ・ 意見の取りまとめ等が遅れてしまったために、日期的に窮屈な状態となってしまったため、次年度は計画段階でゆとりを持たせていきたい。		
			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応 (緊急メールの活用)	・ 北朝鮮情勢に関わる緊急対応マニュアルを追加し、職員に配布の上、生徒に周知した。 ・ 緊急メールの加入率は昨年比に上昇し、約8割となった。			○		・ 緊急時の対応については、引き続きスムーズな連絡が取れるようにしたい。 ・ 担任に加入状況を伝え、未加入の家庭については引き続き加入のお願いをしていく。		
			・ 電子化による情報の共有(月曆・施設予約)	・ 月曆については、サーバーへのショートカットを作成し、参照できるようになっている。1月初めに教員用のPCの更新が実施されたため、その後情報の共有化を検討し、試行を始めている。			○		・ 教員用PCの更新後に会議室予約だけではなく、各種の連絡用掲示板のようなシステムを情報係で検討し、実用化を進めていく。		
			2 職員研修の充実	・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設営と支援	・ 2学期初日に、昨年度に引き続きコンプライアンス研修および将来構想に関する検討会を行った。			○		・ 今年度は前半にコンプライアンス、後半に将来構想の討議を行った。時間が不足したグループがあったため、次年度については内容の精選等を委員会と協議していく。	
	校	3 広報活動の充実 (開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行	・ 学校案内については、中学校での進路説明会に向けて中学生に配布できるよう作成を行った。また、学校要覧についても同時期に作成を完了することができた。			○		・ 今年度と同様の日程で学校案内を作成し、地区内の中学生に配布できるようにしたい。学校要覧についても同時期の完成を心がけたい。		
			・ HPの充実(更新)	・ HPをリニューアルし、見やすいものとなった。また、各学科の取り組みやSPH事業、行事の様子も教務室通信ブログとしてアップしている。			○		・ 生徒・保護者・地域の方に本校を知ってもらうために、更新の頻度を増やしていきたい。		
			・ 保護者等への情報発信	・ 今年度は学校からの通知や生徒の旅行の動静について、メールやHPを活用している。			○		・ 学校からの保護者宛の通知等にも利用をさらに拡大させたいと考えている。		
			・ 学校開放事業の周知と充実(中学生体験入学)	・ 例年より1週間遅い実施であったためか、中学生体験入学への参加者は微減した。例年と同様に第1志望として熱意をもって参加してくれた。学校説明・体験学習ともに好評で、学校の特色や専門科の学習内容を理解する良い機会にすることができた。			○		・ 次年度は7月31日に実施予定。校友会には多くの学校生活の説明やクラブ見学誘導等を手伝ってもらったが、次年度は必要最小限でお願いする。 ・ 本校職員の名札を作成し、保護者や中学生が質問できるようにする。		
			(授業公開)	・ 10月23日午後実施。来校者の希望に沿ったコース分けにより見学を実施した。参加者は昨年度に比べ、微減した。 ・ 11月頃より、個別の授業見学者数が昨年度より多くなった。			○		・ 次年度はPTA総会に合わせて、保護者の参観も実施する予定。 ・ 授業公開については次年度は中学生の進路決定前の6月の学校評議員会に合わせて開催したい。		
			II 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 6月の第1回の評議員会、10月の第2回の評議員会で様々な視点からご意見を頂き、関係部署で今年度の事業に反映させている。			○		・ 各部署で年度末の評価をまとめ、次年度の事業に向けてご意見を頂く。
			営	III 地域連携 ※商業・服飾以外	1 近隣へのボランティア	・ 通学路を中心としたゴミ拾い等、環境美化の推進 ・ 交通安全の呼びかけ・電車の乗車マナー	・ 各学年の校舎外清掃の際に校舎正門付近のゴミ拾いをした。 ・ 草取りについては指導の徹底が難しい。 ・ 文化祭やクラスマッチ後に整美委員によるゴミ拾いを行った。 ・ 全校集会等の機会を捉えて、交通安全について呼びかけを行っている。春を中心に活動できた。また自ら駅や通学路を確認することで、良いところや改善すべきところが具体的にわかった様子であった。			○	・ 学校の敷地外のゴミ拾い等、行うことが出来ていない。今後行うよう努力したい。 ・ 今後も交通安全、乗車マナー等について、定期的に呼びかけを行う。例年春に活動を行っているが、新役員になる秋にも活動を取り入れていきたい。
2 高校大学等との連携	・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 体験授業によるインターンシップは、希望者による、個人参加として行っている。					○	・ 春休みなど長期休業を利用した大学講義体験を検討したい。			
3 企業との連携	・ インターンシップ等の推進 ・ 採用担当者の講演会 ・ 内定生徒と採用担当者との面談	・ 職業観を身につけるためのインターンシップは、1学年で全員が参加する形で定着した。内定生徒と採用担当者との懇談は12月に計画している。				○	・ 職員の企業理解のため、企業見学を検討したい。				
4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等 ・ 面接試験に向けた生徒の状況把握	・ 11月に地区内の中学校を訪問し、入試に関する細かい変更点を伝えたり、意見を聞く機会とした。				○	・ 専門科の授業内容を理解した上で受検をしてもらえるよう、体験入学や公開授業へ参加していない中学生には授業見学を勧めよう。また、生徒の情報を可能な限り交換し、今後の対応に活かしていく。				

(注1) 各学年は、関係の分掌と連携し、目標設定および評価に加わる。

(注2) 学校評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)についても、各分掌で年度当初に基本方針を提案し、反省職員会(1月)に成果と課題および改善策・向上策を提案する。